

❶ 地域活動団体ヒアリング（高齢者支援・子育て支援・多世代交流等 8 団体）	❷ 全体ワークショップ（第一回 11/10 実施 74 名参加 第二回 3/10 実施 41 名参加）	❸ テーマ別ワークショップ（A：駅前活性化 B：コミュニティ活性化と多世代交流） （計 6 回実施 延べ参加人数 189 人）
❹ 多世代近居のまちづくりについて（洋光台をモデル地区に）	❺ 多世代交流担い手講座を 1 月より実施（空き店舗活用による多世代交流拠点の試行／参加 8 名、打合わせ 5 回／実施：来場者 320 名）	❻ 住み替え相談会（講演会付き 2 回＋梅の里まつりにブース設置／相談員との個別相談 8 件／ヒアリングによるニーズ把握を実施）
	❼ 次世代育成プロジェクト（3/17 実施 市内の高校生によるまちづくり提案の取組み。洋光台を検討対象のひとつに）	❽ 共創フォーラム（民間企業へ洋光台の取組みを紹介）

■ 項目別取り組み状況

H24 年度の主な取り組み項目

a) 洋光台駅前商店街への地域活動拠点の設置に向けた検討 ① 駅前地区の活性化の方向・及び空き店舗活用への要望等 ◆まちの中央に位置する洋光台の駅前地区は、人が集まる賑わいの核としての役割が期待。（ ❷❸ ） ◆駅前地区の現状の良い点として、「広場が開放的でゆったり」「様々なイベントが開かれ楽しい」「魅力的な飲食店がある」など。一方、課題点等は「若者に魅力的でない」「ロータリー・駐車駐輪場などの不備」「緑や潤いに乏しい」「昔は子どもの声があふれ、夕方市も開かれて今より活気があった」などが出た。 ◆今後駅前地区でやりたい活動として、イベントや交流サロン、見守り活動などが上げられた。 ◆将来にむけて「洋光台らしい雰囲気づくり」や「よどむ（集う・留まる）」機能が必要。また具体的提案として「人が留まる屋根のある場」「顔の見える場所」「噴水やせせらぎ」「シンボルとなる塔」「オシャレなパラソル」「夕方市の復活」等が上げられた。（ ❹ ） ◆空き店舗活用では、試行実験「担い手講座」に参加した既に様々な活動実績をもつ地域の方々が、アイデアを持ち寄り、熱意ある討議で企画を練り上げ、空き店舗で多世代交流体験を行った。（ ❺ ） ② 今後の進め方 ◆テーマ別 A において、駅前地区の目指すべきイメージや必要な機能、空き店舗の活用・運営のあり方、具体的な取り組み等を継続的に検討。成果の一部は駅前広場コンペ等につなげていくことを検討。 ◆今後の空き店舗活用試行は、駅前に係る様々な人々の連携や協力体制づくり、利用のルールづくり、継続できる仕組み等が検討テーマとなる。（ ❷❸❺ ）

b) 地域北部における福祉及び多世代交流拠点に関する検討 ① 福祉・交流拠点に関する現状と課題等 ◆福祉・交流に関する課題として、地域全体で日常的に利用しやすい福祉及び地域交流拠点とともに、若者も含めた多世代交流、まちづくりの担い手としての若者の参画等が強く認識されている。（ ❷❸ ） ◆地域全体での多世代交流実現にむけて「自由な場」「新しい伝統」「若者との共同企画」等のアイデア ◆今、出来る実践を重ねる「Cyoï アクション」をスタート→洋光台全体を対象に、有志による「桜マップづくり＆若者に声かけ」の実施（3/29 予定）（ ❹ ） ② 今後の進め方 ◆テーマ別 B において、福祉も含めた多世代交流拠点のあり方、特に地域北部に必要な拠点機能や活用イメージ、運営方策等を継続的に検討。成果の一部は集会所改修コンペ等につなげていくことを検討。 ◆成果につながる具体的な取り組みとして、様々な「Cyoï アクション」の実践から多世代交流のノウハウを学び共有することで、継続的な多世代交流実現への機運を高める。（ ❷❸ ）

c) 地域が必要とする新たな移動手段（モビリティ）導入の検討 ① 地域の移動手段に関する現状と課題 ◆バスルート変更の要望（地域ケアプラザに行きにくい）、移動支援 NPO から「高齢者の移動支援ニーズは高いが支援側マンパワーが不足」などの意見あり。（ ❶❷❸ ） ② 今後の進め方 ◆テーマ別 A・B において、関連する移動手段の課題・取り組み等についても取り上げていく。（ ❹ ） ◆移動に関するニーズ把握、地域全体でのあり方については H25 年度以降の検討テーマとする。
d) 円滑な地域内住み替えに向けた検討 ① 地域内住み替えに関する現状と課題 ◆不動産事業者ヒアリング、及びワークショップのなかで、若い世代の地域内住み替えや洋光台育ちの U ターン例の報告あり。一方で高齢者の住み替えは抵抗感が強いとの指摘。（ ❶❷❸ ） ◆住み替え相談会及び来場者ヒアリング等では、特に高齢者の方から「不安だが住み続けたい」「相談自体に抵抗感がある」との声が多く聞かれ、実際の相談者数も 10 名程度であった。住み替えハードルを下げる普及・啓蒙方策（特に高齢者の早期住み替えに関して）や気軽な相談・支援体制づくりが課題（ ❹ ） ② 今後の進め方 ◆地域内住み替えの実態・ニーズ把握、及び支援方策等は H25 年度以降の検討テーマとする。 ◆高層住棟の改修に合わせ、サービス付き高齢者住宅等の導入を検討。（UR）

f) 中層住棟屋上等への太陽光パネル設置・エネルギー活用に向けた検討 ◆団地管理における小型 EV の試行（UR 団地管理に活用）、UR 中層住棟への太陽光パネルの設置等

H25 年度に向けて検討を行う項目

e) H25 年以降の洋光台エリア会議の体制及び対象エリアの検討 ① 検討体制 ② 対象エリア	・ ・ 当面は現体制・メンバーを継続予定、将来的に拡大を図ることを念頭におく。
--	---

g) 基礎調査（事業効果指標検討） ◆ WS の進捗状況を踏まえつつ、洋光台の事業展開や状況に即した内容を検討 ◆ WS で捉えられる意見・ニーズをより広い地域の声として確認・検証するアンケートを企画・検討
--